

国語 第3学年 話したいな、好きな時間

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を私の学級に合わせて直してください。初めに、学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や配慮、使える時間と本時の位置、ICTと紙の道具の条件を一項目ずつ質問し、答えを待ってから次の質問へ進んでください。条件がそろったら、話の中心と具体例の関係という目標を保ち、中心・出来事・結びの発表メモで学びを確認できるように全体を直してください。教科書の本文や台詞、挿絵、固有の問題は転載しないでください。配当時は出典に従い、活動の配分を提案する場合は提案と明示してください。児童の姿を実測済みの事実として創作しないでください。三重の指導案の見出しの順と評価の三観点を保ち、内部IDなどを先生向けの文章へ出さないでください。変更箇所と根拠を示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「話したいな、好きな時間」

2 単元の目標

話の中心と具体例の関係を捉え、言葉を使う場面で役立てる。中心・出来事・結びの発表メモに自分の判断と理由を表す。友達の応答や自分の記録を基に、言葉の捉え方や表し方を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①話の中心と具体例の関係を理解し、学習で扱った語句や例を示して説明している。（〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(2)ア）

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話している。（A(1)ア・A(1)イ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

この単元では、話の中心と具体例の関係を中心に学ぶ。好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話す活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(2)アとA(1)ア・A(1)イに関係する学習である。成果は、作業が終わったかのほかに、中心・出来事・結びの発表メモにどんな判断の理由が残るかで捉える。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

予想される難しさは、楽しいという感想を重ね、詳しい出来事を話さないことである。中心の言葉が見える所へ置き、出来事の候補から一番よく表すものを選ばせる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想で、実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

第1次 第1時：○話の中心と具体例の関係に関係する既習を振り返る。○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す中心・出来事・結びの発表メモの内容を確認する。 評価：既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。

第2次 第2～5時（本時は5時）：○好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話す。○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。○その出来事は、好きな理由をどう表していますかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。 評価：知①（語句や関係の整理）・思①

（作成途中の記録・発言）

第3次 第6時：○中心・出来事・結びの発表メモを仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えるような考え方を記す。評価：思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）

6 本時の指導（5／6）

（1）本時の目標

話の中心と具体例の関係について、例や資料を根拠にした自分の考えを中心・出来事・結びの発表メモへ表すことができる。

（2）学習過程

【導入】

学習活動：1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。

○「その出来事は、好きな理由をどう表していますか」

【めあて】話の中心と具体例の関係について、自分の考えと理由を表そう。

予想される児童の反応：・図書の時間が好きな理由を、新しい本に出会った出来事で伝える。

・初めの見方では決められない箇所もあり、例を比べてみたい。

指導上の留意点：本時に使う具体例が見える所へ置く。楽しいという感想を重ね、詳しい出来事を話さない姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。

【展開】

学習活動：2 好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話す。

3 中心・出来事・結びの発表メモの下書きや途中の記録を示し、考えた理由を説明する。

○「その出来事は、好きな理由をどう表していますか」

4 聞き手は、説明に使われた語句や資料を示して質問する。答えが異なる所は、意味や条件を調べてもう一度表す。

予想される児童の反応：・図書の時間が好きな理由を、新しい本に出会った出来事で伝える。

・最初はそう考えたが、別の例と比べると直したいところが見つかった。

指導上の留意点：中心の言葉が見える所へ置き、出来事の候補から一番よく表すものを選ばせる。説明が難しい児童には、対象の語句を選ぶ、線や矢印で関係を示す、口で説明するという方法も用意する。書く量を減らす場合も、本時に考える言葉の関係は残す。早くできた児童には、同じ説明が通らない場合や、他の言い方の可能性を考えさせる。

評価：思① 好きな時間について、中心となる思いと、それを表す出来事を選び、まとまりを考えて話している。（途中の記録・説明）

【まとめ】

学習活動：5 中心・出来事・結びの発表メモへ、本時の判断と理由、見直した箇所を記す。

【まとめ】図書の時間が好きな理由を、新しい本に出会った出来事で伝える。

6 初めの答えとの違い、または理由を確認して残した点を振り返る。

予想される児童の反応：・話の中心と具体例の関係を、別の場面でも意識して使いたい。

指導上の留意点：結論が教師の例と同じかだけで判定しない。その出来事は、好きな理由をどう表していますかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。

評価：知①（語句や関係の説明）・態①（見直しの理由。単元を通した記録と合わせる）

（3）本時の評価

おおむね満足できる状況は、中心・出来事・結びの発表メモで、本時に選んだ語句や説明の理由を表している姿とする。楽しいという感想を重ね、詳しい出来事を話さない場合は、中心の言葉が見える所へ置き、出来事の候補から一番よく表すものを選ばせる。発表の回数や作品の飾り方は評価の根拠にしない。

（４）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には話の中心と具体例の関係を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に中心・出来事・結びの発表メモで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に確かめたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

